

◆ 第10回竜神地域会議 会議録 ◆

日時 2019年1月22日(火) 19:00~20:50
場所 竜神交流館 大会議室
出席者 委員 : 17名(欠席3名)
事務局 : 野田支所長、下川副支所長、川合副主幹、西村主査
オブザーバー: 杉本市議、今吉竜神交流館長

- 次第
- 1 会長あいさつ
 - 2 竜神地域会議の予定
 - 3 連絡事項
(1) わくわく事業交流会について
 - 4 協議事項
(1) 2019年度わくわく事業審査会について
(2) 2020年度地域予算提案事業について
 - 5 その他

■議事(要約)

- 1 会長あいさつ ⇒ 省略
- 2 竜神地域会議の予定
事務局より今後の予定の確認。
- 3 連絡事項
(1) わくわく事業交流会について
<事務局> 3月17日(日)にスカイホールで開催される「WE LOVE とよたフェスタ」の中で、28地域のわくわく団体の交流会を行う。竜神地域からは竹村文化振興会が出席する。
- 4 協議事項
(1) 2019年度わくわく事業審査会について
決定事項
団体の発表方法はヒヤリング(聞き取り)方式とし、審査会は午後1時30分から竜神交流館 多目的ホールにて開催する。
内容等
事務局より今後の流れ(本日1/22 委員へ団体申請書の配布⇒団体への質疑応答⇒審査会⇒交付決定⇒活動見学⇒来年3月末わくわく実績発表会)と、団体の申請書記載事項で審査のポイントとなる部分等を説明。
<事務局> 申請団体は全て継続団体となるため、審査会での団体の発表方法をプレゼンテーション方式とするか、ヒヤリング方式とするか協議していただきたい。
また、以前の定例会で、審査会よりも前に団体に対し質問を投げかけ、回答をもらうやり取りを行うことに決定したため、別紙「わくわく団体への事前の質問事項」に質問を記載して1月31日(木)までに事務局までご提出いただきたい。

<委員> 発表方法について、プレゼンテーション審査とするならば、申請書を読み上げるのではなく、ポイントを絞ってプレゼンをしてもらいたい。内容としては、前年度の目標の達成具合と、それを受けて今年度はどうするかといったものが良い。プレゼン資料もその視点で作ってもらいたい。

<委員> まずはプレゼンテーション方式か、ヒヤリング方式かを決めたほうが良い。

⇒ 挙手による多数決を取り、プレゼンテーション方式 8 名、ヒヤリング方式 9 名により、ヒヤリング方式に決定。また、午前中は都合が悪い委員が多かったため、午後に決定。

(2) 2020年度地域予算提案事業について

前回の続きとして、地域予算提案事業として取り組むべきとしたテーマの理想の状態と目標についてグループワークを行った。最後に各グループで最も取り組むべきと考えたテーマについて発表。

グループワーク報告

<グループ A>

安心・安全なまちづくりを目的とし、防災に対する取り組みが必要だと思う。理由は災害に対して住民の意識が低いと感じている。地域住民は災害時に活用できる井戸の場所や A E D の設置場所、自主避難場所を把握していないように思うため、周知する必要がある。また、以前に地域予算提案事業で作成した防災ガイドブックが活用されていないと思う。具体的な理想の状態は防災ガイドブックが活用され、地域住民が災害に備えていることである。目標としては、地域住民が防災ガイドブックに記載されている災害に対する準備品を 100% 準備している状態にすることである。

<グループ B>

自治区役員になってもらいやすい体制づくりについて話した。例えば、本町自治区について、困っていることから考えられる理想の状態は、色々なことを変えていこうとしたときの地域の大御所の理解が得られること、区長が 1 年で交代するのではなく 2 年交代になること、また何かをやろうとすると全て人力なのでパソコンを上手に活用できるようになると良いと考える。そのために豊田市全体で自治区の会計ソフトを統一に、自治区行事はスケジュール見本があり、それを少し変えることで行事を組んでいく事務の標準化、パソコン操作については分からないときに教えてくれるようなお助け隊等の設置、同様の事務を行っている場合には相談等ができる体制づくりが必要だと考える。

<グループ C>

子ども達が楽しく育つまちづくりについて話した。課題の選定理由は、公園があっても遊びたいと思える場所ではなく、場所さえも知られていないためである。また近隣住民から苦情が出るという話も聞いている。理想の状態としては、公園が交流の場所として、みんながワイワイと過ごせる場所であること、子どもたちが楽しく遊べ、遊びたいと思える遊具があること、また親たちが行きやすいように駐車場があることである。しかしながら、実際に何が必要なのか、何が求めら

れているのかは、20～30代の子育て世代や学校とも相談をしながら実施していくのが良いと思う。目標としては、子ども達が行きたいと思う場所であること、近隣から苦情がでないようにすることである。

<グループD>

防災・減災の推進について話した。課題の選定理由としては、地域住民の災害に対する意識が低く、自分たちの避難場所等を知らないということである。自治区の役員でさえも知らないことがある。地域に様々なマニュアルやガイドブックがあるが、読んだことがない住民も多く活用されていない。理想の状態としては、既存のマニュアル等について、自治区の役員が内容を把握し、日頃より合同訓練等の準備を行うことである。また自治区の自主避難場所についても、役員たちは発災時にどのようにすれば良いか分かっていないので知識をつけること、また自治区の防災備品について使える状態か確認をすることが必要である。

■次回の予定 2月26日（火）PM7：00 第11回定例会
場所：竜神交流館 大会議室